

2019 年度 文化庁委託調査研究事業報告書

## 文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究

～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～



一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム



## 目 次

- 第1章 本事業の概要と実施状況
- 第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施
- 第3章 脚本現物のデジタル化について
- 第4章 目録の作成及びデータベース公開について
- 第5章 大学機関との連携研究
- 第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究
- 第7章 委員会
- 第8章 脚本アーカイブズ活動の今後の展望について

# 第1章 本事業の概要と実施状況

## 1. 事業名

文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究  
 ～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～

## 2. 目的

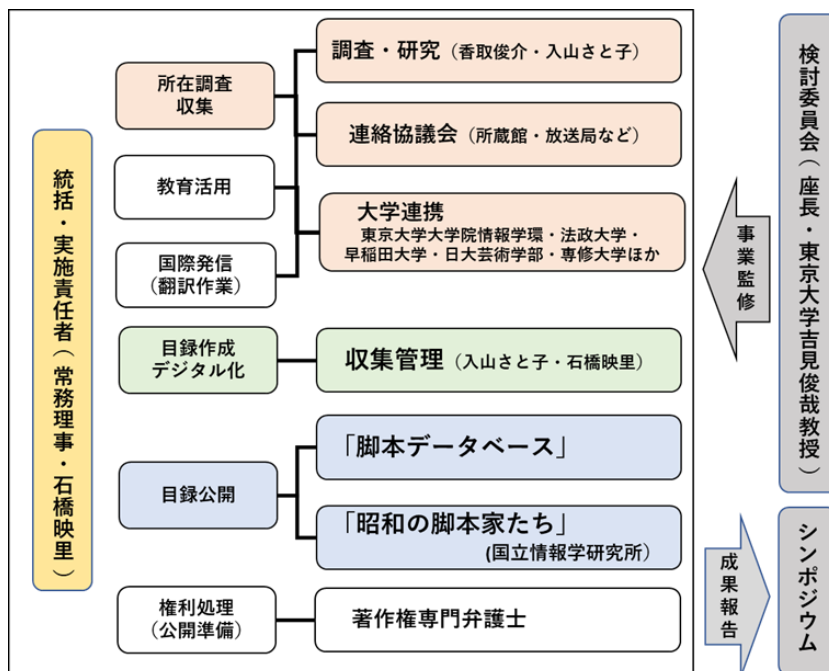
歴史的・文化的価値のある放送（テレビ・ラジオ番組）の貴重な文化関係資料が散逸・消失することがないように、資料の保存及び活用を図ると共に、デジタルアーカイブ構築推進を目的とした調査研究を行う。

## 3. 事業期間

2019年4月1日～2020年3月31日

業務項目	実施期間（2019年4月1日～2020年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)脚本のデジタル化に関する研究	脚本収集順次/所蔵調査順次											
(2)目録の作成及びデジタル化に関する研究	DB改修開始						脚本家データベース試作					
(3)所蔵館等との連携体制の構築に向けた調査研究	放送局協力要請/ヒヤリング順次						所蔵館連絡					
(4)検討委員会、シンポジウム等	ミニ展示	検討委員会		ミニ展示	検討委員会		ミニ展示	検討委員会		ミニ展示	検討委員会	シンポジウム
(5)報告書作成										作成		

## 4. 実施体制



## 5. 2019年度の研究調査事業概要

### 5.0 はじめに

今年度の研究調査事業において、活動の体制に影響する事象が2件あげられる。

#### ①川崎市市民ミュージアムの台風被害

#### ②新型コロナウイルス問題

まず、川崎市市民ミュージアムについては、主たる作業拠点だったことから、活動に大きな変更が生じた。大学連携の活動のため、法政大学社会学部に研究スペースを確保していたため、入力作業中の資料300箱以上を移転することができた。被害が報じられたのち、多方面から「脚本が浸水したのではないかと心配の言葉を頂いた。幸いにして、資料はすべて図書スペースと同階の3階閉架書庫にあったため、直接の被害は免れた。

しかしその後、寄贈資料をすべて搬出し移管してほしいという要請を川崎市側から受けた。カビなどの二次汚染を危惧する点と、収蔵品修復の場所を確保したいという理由を伺った。2万5千冊以上の脚本は簡単には移動できない。多方面に協力の呼びかけを行い、日本大学芸術学部の所沢校舎（本校舎は現在使われていない）の図書館に保管頂く方向で検討を開始した。

もう一つの問題は、やはり新型コロナウイルスの影響に違いない。

長時間かけて準備を重ね、拡散防止対策にも備えてきたシンポジウムは、開催が叶わなかった。今後は配信の形等でのシンポジウムを検討していきたい。

自宅での入力は可能となるため、本事業がテレワークに適していることが改めてわかった。大学での作業と並行し、テレワークを積極的に取り入れていきたい。

### 5.1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究(脚本現物資料の研究)

#### ①脚本の所蔵調査および収集の実施

令和1年度の3月末までの収集実績は9,766冊（複本を含む）。

現在までに収集した総数は10万点を超えた。

住友倉庫保管の箱数：373箱

※大口寄贈 故・高久進氏 1596冊（20箱以上）

慶応幼稚舎より故・梅田晴夫氏 387冊以上（20箱）

フジテレビ・テレビアニメ 4294冊（コンテナ21箱）

故・中西隆三氏：約400冊（5箱）など

#### ②脚本現物のデジタル化について

- 「表紙」撮影(1980年以前の脚本資料)

国会図書館への寄贈を希望している1980年以前に作成された脚本のうち、

- 「表紙」（川崎市市民ミュージアム所蔵資料）

第二期寄贈分約 8000 冊の撮影実施完了。

■ アニメ脚本「表紙」撮影

新規寄贈分のうち書誌入力を終えた 614 冊について撮影を実施。

③脚本家等の証言録取

- ・脚本の所蔵把握と共に、脚本家・制作者へオーラルヒストリー取材（証言録取）を行う。
- ・インタビューは年間 3 名を目標に大学連携研究として行った。

（2）目録の作成及びデジタル化に関する研究

①目録作成及び「脚本データベース」の拡充

新規更新分

- ・表紙：川崎公開中資料の表紙を追加。（更新 5,059 枚）表紙掲載総数：56,806 枚
- ・あらすじ：アニメを中心に約 100 件、うち 50 件を英語翻訳し掲載。

今年度更新予定

- ・映画シナリオ表紙：掲載準備中
- ・オフィスヘンミ寄贈の約 2000 冊分表紙画像：掲載準備中
- ・あらすじ：120 件掲載準備中

②大学機関との連携研究

- ・平成 30 年度に実施の「全国大学図書館へのアンケート」により、寄贈希望の連絡。  
クラシック音楽番組の台本を受け入れ予定。
- ・教育活用の試行：川崎市市民ミュージアム、NHK 放送博物館、品川学園にて実施した。
- ・シニア世代への社会的活用について：NHK の実施する「回想法」についてヒヤリング実施
- ・若手制作者向けセミナー（VIPO と共催）  
第一回：脚本家・羽原大介氏×小林大児氏（NEP）×聞き手・中町綾子氏  
第二回（予定）：脚本家・尾崎将也氏×米田孝氏（関西テレビ）×聞き手・中町綾子氏

③脚本家に焦点をあてたデジタルアーカイブ「昭和の脚本たち」の構築

- ・年間 20 名を目標とし、あらすじをつけた作品リストなどを掲載準備中。

④「ジャパンサーチ」との連携 <https://jpsearch.go.jp/>

- ・「ジャパンサーチ」へ、JACC サーチを経由して「脚本」の書誌データを更新提供。

（3）所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

①所蔵館の連絡研究

調査結果では、全国で脚本の所蔵館は公共図書館約 100 か所、その他文学館・資料館も 30 か所以上で「地域資料」として分散保存され、多くは OPAC にも掲載されていない。事前

の調査結果と(1)①の調査を踏まえ、全国の脚本資料を横断検索する「統合検索サイト」の構築の試作版作成の検討を本格開始。

## ②放送局との連携に向けた研究

### ■放送局ライブラリー部ヒヤリングを実施

- ・5月：北海道放送、札幌放送
- ・6月：フジテレビ
- ・10月：テレビ朝日・若葉台メディアセンター
- ・9月～10月：アニメを中心とした脚本の所蔵館訪問

### ■放送番組センターと連携し、放送ライブラリー内に脚本15～20冊を展示する。

年4回を目標に展示替えを行い、3か月ごとにテーマを決めて脚本を展示する。脚本アーカイブズ活動の周知を図り、脚本への興味を喚起する。

- ・4月～7月「学園ドラマ特集」
- ・7月～9月「平成の懐かしい番組」
- ・10月～12月「お仕事ドラマ」
- ・1月～6月「懐かしのテレビアニメ」

## (4) シンポジウム(新型コロナウイルス拡散防止のため中止)

日時：2020年3月20日(祝・金)13時半～17時半を予定

会場：法政大学市ヶ谷校舎 スカイホール

タイトル：脚本アーカイブズシンポジウム2020『脚本を残し後世に語り継ぐこと』

### ■第一部(対談)「脚本データベースの連想活用法」

高野明彦氏(国立情報学研究所教授)

聞き手：吉見俊哉氏(東京大学大学院情報学環教授)

### ■第二部(パネルディスカッション)「脚本に込められた想いとほ」

登壇者：大石静氏、黒崎博氏(NHK)

司会：藤田真文氏

後援：国立国会図書館、NHK、日本民間放送連盟、日本脚本家連盟、放送文化基金

## 第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施

### 1. 収集作業について

#### 1.1 平成29年度からの収集の流れ

文化庁からの第一次委託研究事業は平成24年から28年度の5年間で完了し、平成29年度は事業をさらに発展させるための準備期間を持ちつつ、寄贈は継続して行った。

平成28年度に脚本家遺族へ手紙で呼掛けた経緯や、日本脚本家連盟、シナリオ作家協会等の関連団体に脚本アーカイブズの活動が周知されてきたこともあり、脚本寄贈の申し出が途切れることはなかった。川崎市市民ミュージアムの協力により、作業場所をご提供いただき、小山内美江子氏やオフィス・ヘンミからなど大量の寄贈脚本を受入れが実現した。

その後、平成30年度の委託研究調査事業（5年間の調査研究を予定）が再開され、データ入力作業に繋げることが可能となった。

#### 1.2 今年度の収集実績

令和元年度3月末までにカウントできた寄贈脚本は、9766冊。

現在収集した脚本等の資料数は10万点を超え、国立国会図書館への寄贈検討資料は2万5千冊（複本・資料含む）以上。今後は目標数を3万点として移管することを目標とし、調査研究を継続して行う。

【年度別収集資料の内訳】		※2020年1月 収集済資料					
分類	寄贈・移管先	現在の総計	R1年度	H29～30年度	H28年度	H27年度	H17年～26年度
1980年以前の放送（移管済）	国立国会図書館	27,219					27,219
1980年以前の放送脚本	住友倉庫保管、一部整理入力中	29,246	3,825	6,207	11,264	6,811	1,139
1981年以降の放送脚本	川崎市市民ミュージアム（23,840冊公開済）	25,558	713	2,324	1,817	5,159	15,545
映画シナリオ	国立映画アーカイブ(955冊倉庫保管)	2,455	169	553	99	439	1,195
演劇台本	早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館(803冊倉庫保管)	1,371	114	438	168	243	408
生原稿（世田谷由来の作家のみ）	世田谷文学館	91					91
生原稿（NHK放送分）	倉庫保管（NHK放送博物館と交渉中）	434					434
アニメ	倉庫保管、未入力分は法政多摩校舎	8,004	4,722	123	1,655	199	1,305
放送禁止台本、個人情報資料など	川崎市市民ミュージアム保管	100					100
歌謡ショー等イベント	住友倉庫保管（移管先未定）	421				13	408
複本	法政大学多摩校舎倉庫保管（移管先交渉中）	4,994	223	608	833	374	3,179
複本	寄贈元放送ライブラリーへ返却	2,103			1,300		803
NHK放送の複本	NHKアーカイブスへ返却	633			633		
劣化、個人資料など	返却・廃棄	678				600	78
	総計	103,307	9,766	10,253	17,769	13,838	51,918



【令和元年度脚本収集作業進捗状況表(2020/3/29)】

	寄贈元		作業状況	受取日	放送 (80年以)	放送 (81年以)	映画	演劇	アニメ	重複	寄贈者別 冊数
1	桜井康裕 (故人)	作家	入力済	2019/4/24	569	177	28			188	962
2	吉田紀子	作家	入力済	2019/5/15		28					28
3	奥山侑伸	作家	入力済	2019/5/20		1					1
4	小田原市立図書館	所蔵機関	入力済	2019/5/21							0
5	羽原大介	作家	入力済	2019/6/5		52					52
6	高久進 (故人)	作家	重複チェック中	2019/6/5	966	410	23		94		1493
7	中山和記	制作者	入力済	2019/6/14			34	20			54
8	赤間いづみ		入力済	2019/7/10	8						8
9	奥山侑伸	作家	入力済	2019/7/17	14	4					18
10	椋山女学園 (飯塚恵理人)	研究機関	入力済	2019/8/15	115		2	20		14	151
11	田中健三	俳優	入力済	2019/8/28		20				21	41
12	慶應幼稚舎 (梅田晴夫)	作家	重複チェック中	2019/9/10	2109		58	74			2241
13	フジテレビ	放送局	入力中	2019/11/8					4294		4294
14	上野利花 (中西隆三)	作家	重複チェック中	2020/1/17	44	21	24		334		423
			合計		3825	713	169	114	4722	223	9766

## 2. 寄贈者別詳細

以下、今年度に寄贈のあった脚本家や制作関係者と寄贈脚本の概要を紹介したい。

### ①故・桜井康裕

昭和4年、茨城県生まれ。平成28年5月11日87才で死去。東宝、大映等の映画脚本執筆をしながらドラマ脚本家としても活躍。1960年代より『泣いてたまるか』『これが青春だ』『われら青春』『銭形平次』『水戸黄門』など数多くのドラマを手がけた。平成31年4月、ご子息の康彦様より御寄贈のお申し出を戴き、4月21日、神奈川県藤沢市のご自宅に収集に伺う。壁面に作られた本棚に並んだ脚本を段ボール21箱に詰める作業を行い、4月24日、川崎市市民ミュージアムの作業場に宅配業者経由で搬送。御寄贈いただいた脚本は1177冊。『大岡越前』『長七郎天下御免』『江戸の用心棒』などの時代劇や『非情のライセンス』『いろはの“い”』『サラリーマン出世作戦』などの社会派ドラマが多いが、1960年～70年代には『青い山脈』『レモンの天使』『婚約宣言』などの青春・恋愛ドラマ作品も数多く執筆されていたことが分かる。

### ②故・高久進

昭和8年福島県生まれ。平成21年7月22日、76才で死去。大映東京撮影所にシナリオ研究生として入所。昭和34年、新東宝の映画『九十九番目の生娘』で脚本家デビュー。1960年代後半からテレビ作品の執筆に移り、『特別機動捜査隊』『キイハンター』『Gメン75』などのアクションドラマや、『悪魔くん』『マグマ大使』『コメットさん』などの特撮、『デビルマン』『マジンガーZ』『キューティーハニー』などのアニメ脚本など、多岐のジャンルにわたり活躍された。奥様の公美子様からは、高久氏が亡くなった後に寄贈のお申し出を受けてはいたが、その後奥様の御病気などの事情で連絡が途絶え、寄贈には至っていなかった。昨年度『コメットさん』の熱心なファンである靱山幸士氏がアーカイブズに『コメットさん』の脚本を閲覧に来訪した際に公美子さんとの連絡を橋渡ししていただき、今回の御寄贈が実現した。御寄贈いただいた脚本は1493冊。内訳は『マジンガーZ』『キューティーハニー』『Getterロボ』などのアニメ脚本94冊、高倉健主演の実写版『ゴルゴ13』や『黄金バッド』『仮面ライダー』などの特撮映画脚本23冊、『Gメン75』や火曜サスペンス劇場の人気シリーズ『女弁護士高林鮎子』、『世界忍者ジライヤ』『機動戦士ジバン』『悪魔くん』『マグマ大使』『コメットさん』などの特撮を含めたドラマ脚本1376冊。

### ③中山和記

共同テレビジョン常務取締役、専務取締役、制作センター室長兼ゼネラルプロデューサー、株式会社バンエイト代表取締役社長などを歴任し、現在はバンエイト取締役相談役。1975年、『時間よとまれ』（ANB）で文化庁芸術賞優秀賞。『実録・金の戦争』（CX）で放送文化基金賞優秀賞、民間放送連盟賞優秀賞、他を受賞。『アナウンサーぷつつん物語』（CX）でA

TP特別話題賞受賞。『ニューヨーク恋物語』(CX)でギャラクシー賞受賞。その後、日本映画テレビプロデューサー協会の『94年度エランドール大賞プロデューサー個人賞』を受賞。また、『黒革の手帖』(ANB)で全日本テレビ番組製作社連盟のATP賞ドラマ部門最優秀賞受賞。今回、ご本人より54冊の脚本と2本のビデオを御寄贈いただいた中には上記受賞作品の他に『天皇の料理番』『実録 福田和子』『黒い十人の黒木瞳』などの話題作の脚本も含まれている。

#### ④ 椙山女学園・飯塚恵理人

椙山女学園大学教授である飯塚恵理人氏よりご寄贈のお申し出を受け、8月、宅配便にてご寄贈いただく。飯塚氏は能楽を中心とする中世日本文学の研究が専門。平成19年度に放送文化基金の助成を受けて昭和初期のラジオ放送による芸能の変化を研究し、近年は古典芸能の放送番組のアーカイブ活動に力を入れている。歌舞伎や新派などの放送番組やレコード音源をアーカイブし、ネットでの公開もしている。今回ご寄贈いただいたのは、大正・昭和期の劇作家谷屋充が執筆したラジオドラマ・歌舞伎台本を中心とした137冊。今回寄贈された台本はデジタル化済ということで作品タイトルが『恵理人の部屋』というサイトで公開されている。

#### ⑤ 慶應幼稚舎図書館(故・梅田晴夫)

7月22日、慶應幼稚舎図書館の白石文子様より、サイトの申し込みフォームから、卒業生である梅田晴夫氏の脚本ご寄贈のお申し出をいただいた。

梅田晴夫氏は大正9年東京生まれ。大正15年、慶應義塾幼稚舎入舎後、大学院まで慶應で学ぶ。大学ではフランス文学を専攻。卒業後、教職と並行して小説の執筆やフランス戯曲の翻訳を始め、昭和24年、NHK放送のラジオドラマ『結婚の前夜』で脚本家デビュー。内村直也の門下に入り、本格的に劇作の執筆に取り組む。ラジオドラマ『ウツカリ夫人チャッカリ夫人』や『母の肖像』、映画『伊豆の踊子』、テレビドラマ『殿下と結婚する方法』など昭和30年代にかけて数多くの脚本を執筆。昭和34年に長男・望夫の誕生をきっかけに劇作活動から退き、博報堂に入社。以後、趣味で蒐集していた万年筆や西洋骨董品に関する随筆などを執筆。昭和55年年12月21日、肺癌のため死去。享年61。

慶應幼稚舎図書館では、このまま図書館で公開されないまま所蔵しているよりは公的機関で閲覧されることが脚本の利活用としては望ましいのではないかと梅田氏の長男・望夫氏の同意を得て寄贈を打診。戦後のラジオドラマ、草創期のテレビドラマ放送を知る上での貴重な資料であることからありがたくご寄贈いただくことになり、9月10日、段ボール箱21箱に詰められた脚本を搬出。寄贈いただいた中には、昭和20年代に各放送局で制作されたラジオドラマの効果音や音楽を指定する書式が放送局毎にバラバラなので統一するために記された書式の凡例など、放送史を研究する上で貴重な資料もあった。ラジオドラマの人気番組『えり子とともに』の企画書には当初案に上がっていた『えり子の家』というタイトルが記され

ている。また『ウツカリ夫人チャッカリ夫人』の脚本は『ウツカリ夫人』と『チャッカリ夫人』脚本の題名が分かれており、放送回によって主人公が入れ替わっていたことが伺える。

『夜のミュージカル』『山口淑子の時間』『2時ですこんには』などのテレビのショウ番組、構成番組など多彩なジャンルの脚本があり、ラジオドラマに限らず、草創期のテレビ放送に幅広いジャンルで活躍された梅田氏の功績が伺える。

## ⑥フジテレビジョン

5月24日、フジテレビジョンのコンテンツ事業センター戦略担当局長・加藤浩輔氏、同技術局放送技術センターメディアバンク部長・早川謙二氏、著作権契約部部长・藪木令子氏、編成部部长渡邊郁子氏が訪問。局内で保存しているアニメ脚本約四千冊の寄贈の申し出を受けた。加藤氏の説明によると、フジテレビジョンでは局制作で所蔵している台本については配信事業に際してテキストデータ化する試みもあり、局内のメディアバンクというライブラリーに保存するようになっているが、昔のアニメについては権利関係がはっきりしない物が多いので、保存してよいのかどうか迷っていたという。民放連に相談したところ、脚本アーカイブズを紹介され、権利関係についても対応できていると判断のうえ寄贈を検討したとのこと。当初、台本のタイトルリストが出来次第、夏以後2～3回に分けて搬出・受け取りという話であったが、局内の人事異動等で搬出作業が遅れたことと、10月の台風19号で川崎市市民ミュージアムが被災し閉館したためアーカイブズで受け取り体制が整わない等の理由で11月8日、法政大学多摩校舎にて一括搬入によって受け取ることとなった。寄贈分量はコンテナ21箱で冊数は4294冊。ほとんどがタイトル毎に合本されている。

## ⑦故・中西隆三

昭和7年東京生まれ。脚本家。昭和30年代中頃より映画脚本を執筆。日活映画『俺にさわると危ないぜ』『大巨獣ガッパ』、ドラマ『大江戸捜査網』、アニメ『フランダースの犬』『小公女セーラ』など幅広い作品を手がけた。1月に娘の上野利花様より申し出を受け、1月17日、宅配便にて423冊の脚本をご寄贈いただいた。うち334冊が『愛の学校・クオレ物語』『美味しんぼ』『シートン動物記』『アラビアンナイト シンドバッドの冒険』などのアニメ脚本。他には『純愛山河 愛と誠』『文語捕物帖』などのテレビドラマ脚本65冊、『神田川』『早打ち小僧』などの映画脚本24冊。

そのほか、吉田紀子氏からNHK土曜時代劇『忠臣蔵の恋 四十八人目の忠臣』や『片思い』『ダンシングアイ』などWOWOWで放送されたドラマ脚本など28冊をご寄贈いただいた。また、羽原大介氏からも連続テレビ小説『マッサン』『スパイラル 町工場の再生』など最近放送された脚本52冊が寄贈されている。

## 第3章 脚本現物のデジタル化および権利関係

### 1. 現物デジタル化作業について

今年度は電子化作業として、3つの工程に分けて実施した。

#### 【1】川崎市市民ミュージアムでの表紙撮影

昨年度に引き続き、撮り漏れていた脚本の表紙を撮影した。品質維持と資料劣化防止のため専門業者へ作業依頼した。公開中の資料を持ち出せないことから、書庫内での撮影作業となった。撮影は夏に行われたが、その後川崎市市民ミュージアムの台風被災により、資料に触れることも難しくなったため、現物確認などは表紙撮影が大変役立っている。

#### 【2】川崎市市民ミュージアムから避難脚本の「表紙」撮影

国立国会図書館への寄贈を希望している1980年以前の台本について、倉庫保管前の入力作業中脚本について、救出搬出すると共にデジタル化を行った。

台本の脚本が2000冊以上あるため、専門技術が必要となる。

#### 【3】アニメ脚本「表紙」撮影

2019年度、新規受け入れを行った約4千冊のアニメ台本のうち、入力を終えた614冊について表紙撮影を行った。表紙に一部キャラクターイラストが掲載されていることから、現在はデータベースに掲載していない。今後、著作権処理について検討し、掲載していきたい。

#### 【4】映画脚本の「表紙」撮影

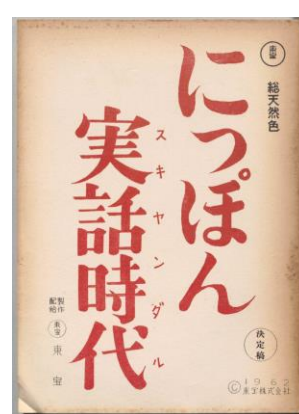
2019年度、国立映画アーカイブに寄贈した映画脚本750冊の表紙を撮影した。



キャラクターが描かれたアニメ脚本



森田芳光氏執筆  
映画作品



1962年映画作品

以下、作業仕様についての詳細を報告いただいた。

## 2. 令和元年度 放送脚本資料電子化作業の実施概要について

(報告：株式会社ニチマイ)

### 【1】 川崎市市民ミュージアム内での表紙撮影

#### (1) 作業内容

脚本資料の表紙部分のみをスキャニングし、画像データを作製。

スキャニング作業は、全て川崎市市民ミュージアム指定場所にて実施。

#### (2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

※1) 2) 3) の作業は川崎市市民ミュージアム内にて実施、4) 5) 6) は弊社にて実施

#### (3) 電子化仕様

- 1) 解像度：400dpi
- 2) 認識サイズ：原寸認識
- 3) 階調特性：24ビットフルカラー
- 4) データ形式
  - ①JPEG2000
  - ②PDF
- 5) 格納メディア  
HDD

#### (4) 使用スキャナー

コニカミノルタ社製 EPICWIN5000CMK II Lab ×1台（弊社所有機器）



## スキャナー仕様

出力解像度	200、240、300、400、600（光学解像度 400dpi）
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレイスケール、2 値
原稿サイズ	330mm×460mm
サイズ	W674mm×D787mm×H918mm
生産国、メーカー	日本 コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

※EPICWIN5000CMK II Lab の画像及び仕様はコニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社の当該機カタログより抜粋。

### (5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間及び川崎市市民ミュージアム内作業期間等

①全作業期間：令和元年 6 月 26 日～令和元年 7 月 26 日

②川崎市市民ミュージアム内作業期間

・機材搬入及び搬出：

令和元年 6 月 26 日弊社スキャニング機材等搬入／令和元年 7 月 17 日機材搬出

・川崎市市民ミュージアム内作業日：令和元年 6 月 26 日～令和元年 7 月 17 日（火曜日～金曜日稼働（月曜日は休館日））

③作業時間：9 時 30 分～17 時（17 時退館）

2) 作業場所

・川崎市市民ミュージアム 3 階書庫内

3) 作業体制

①川崎市市民ミュージアム内作業 表紙部分のスキャニング作業

（スキャニング前整理作業、一次画像検査作業も兼務）

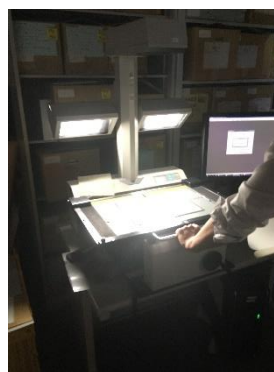
スキャニング作業員 1 名（文書情報管理士 1 級）

②二次画像検査作業：1 名

③ファイル変換、成果物作製等作業 2 名（内 文書情報管理士 1 級 1 名）

4) 作業数量

・表紙部分のスキャニング作業 4,435 ファイル



撮影作業の様子

## 【2】川崎市市民ミュージアム保管脚本資料の搬送及び表紙撮影

### (1) 作業内容

川崎市市民ミュージアム保管脚本資料 109 箱の搬出、109 の内 41 箱は法政大学多摩キャンパスへ移送、68 箱は弊社作業場所へ移送してスキャニングを行った。スキャニングにあたり、脚本資料が収納されている箱の作業後倉庫保管用ラベルの作成及び箱へのラベル付与を行い、表紙部分をスキャニングし画像データを作製した。スキャニング作業は、全て川崎市市民ミュージアム指定場所にて実施した。

### (2) 作業工程について

ア) 川崎市市民ミュージアム保管脚本資料の搬出及び移送作業

- 1) 搬出及び移送対象となる資料が収納されている箱数の確認及び移送作業用管理番号の付与作業
- 2) 搬出作業
- 3) 移送車両への積み込み
- 4) 弊社への移送
- 5) 法政大学多摩キャンパスへの移送

イ) 表紙撮影作業

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（前述【1】川崎市市民ミュージアム内での表紙撮影と同様）

(4) 使用スキャナー（前述【1】川崎市市民ミュージアム内での表紙撮影と同様）

### (5) 作業実施時期・場所等

ア) 川崎市市民ミュージアム保管脚本資料の搬出及び移送作業

- 1) 全作業期間：令和元年 11 月 26 日～11 月 27 日
  - ①令和元年 11 月 26 日対象資料 109 箱搬出及び弊社へ移送
  - ②令和元年 11 月 27 日 109 箱中 41 箱を法政大学多摩キャンパスへ移送
  - ③作業時間：9 時～17 時
- 2) 作業場所：川崎市市民ミュージアム 3 階書庫、弊社資料保管庫、法政大学多摩キャンパス



サステナビリティ研究所

### 3) 作業体制

①令和元年 11 月 26 日 109 箱搬出及び弊社へ移送作業：2t 車両運転手 1 名、営業担当者 1 名  
※搬出にあたり、川崎市市民ミュージアム停電の為エレベータの利用が限定されていたため、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムのお手伝いをいたしました。

②令和元年 11 月 27 日 41 箱法政大学多摩キャンパスへ移送作業：1t 車両運転手 1 名、営業担当者 1 名



川崎市市民ミュージアム 3 階・全巻停電の中、懐中電灯と外光をたよりに行う搬出作業

### 4) 作業数量

脚本資料収納箱：109 箱

#### イ) 表紙撮影作業

##### 1) 全作業期間

①全作業期間：令和元年 11 月 29 日～令和 2 年 1 月 14 日

②作業時間：9 時～17 時

##### 2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

##### 3) 作業体制

①スキャニング作業前整理作業：1 名

②スキャニング作業：1 名（文書情報管理士 1 級）

③一次画像検査作業：1 名

④二次画像検査作業：1 名

⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2 名（内 文書情報管理士 1 級 1 名）

##### 4) 作業数量

①表紙部分：3,916 ファイル

### 【3】アニメ脚本資料表紙撮影

#### (1) 作業内容

放送脚本資料をスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業は、全て弊社作業場所にて実施した。

#### (2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

#### (3) 電子化仕様（前述【1】川崎市市民ミュージアム内での表紙撮影と同様）

#### (4) 使用スキャナー（前述【1】川崎市市民ミュージアム内での表紙撮影と同様）

#### (5) 作業実施時期・場所等

- 1) 全作業期間等
  - ①全作業期間：令和2年3月4日～令和2年3月17日
  - ②作業時間：9時～17時
- 2) 作業場所  
株式会社ニチマイ 本社作業場所
- 3) 作業体制
  - ①スキャニング作業前整理作業：1名
  - ②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）
  - ③一次画像検査作業：1名
  - ④二次画像検査作業：1名
  - ⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）
- 4) 作業数量  
表紙部分のスキャニング作業：614ファイル

## 【4】その他

### 1) 資料状態について

資料の一部については劣化しているものがあった。

### 2) 資料取扱いについて

封筒からの出し入れ時に、封筒に資料が引っ掛かる等で資料が傷まないように留意して作業を行った。

### 3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

資料と封筒の管理・・・脚本資料は封筒にはっている状態であり、スキャニング作業に当たり封筒からの資料の出し入れは1点1点ずつ行った。脚本資料本体には管理番号等ラベルが貼付されないので、封筒への戻し間違い等起こらないように実施した。

### 4) 資料形態等

・合冊製本されている資料について、脚本の表紙のみスキャニングを行ったので問題なかったが、合本製本の綴じがきつく本文にかかって脚本が多くあったので、本文をスキャニングする場合には解体等の解決策の検討が必要と考える。

・合冊製本の場合、合冊製本の表紙が台本の表紙ではないので注意した。

・資料管理と作業効率上、リストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

(資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。)

### 5) 資料保管場所

持ち込まれた脚本資料は以下弊社セキュリティ体制のもと弊社耐火保管庫にて保管した。

#### ①耐火保管庫 外部及び内部画像



#### ②資料保管場所他セキュリティについて

弊社本社への入館及び耐火書庫設置場所及び各作業場所へはセコム入退室カードシステムにより関係者以外は入室できない体制を整えている。

また、耐火保管庫設置場所及び各作業場所への入退室について日時単位で個人特定が可能な仕組みとなっている。

### 3. デジタル化作業に関する著作権処理について

昨年度改定したエントリーシート（現物の所有権移転を確認する書類）をもとに、寄贈者への確認書を送付した。寄贈時のエントリーシートにデジタル化についてのご理解を頂き、劣化状況によりデジタル複製される可能性がある旨を書面に明記した。

川崎市市民ミュージアムでの被災状況が報道され、デジタル化の必要性について寄贈者を含め、検討する大きな契機となったといえる。

<p style="text-align: center;"><b>脚本・台本寄贈用エントリーシート</b></p> <p style="text-align: center;">日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 御中</p> <p>私は、貴コンソーシアム及びその移管先による本脚本等の所有と管理（保存のためのデジタル化を含む）に同意します。</p> <p style="text-align: center;">【寄贈の脚本・台本等の明細】別紙リストに記載</p> <p style="text-align: right;">_____ 年 月 日</p> <p>住 所: 〒 _____</p> <p>_____</p> <p>署 名: _____ 印</p> <p>電 話: _____</p> <p>(未成年者の場合、親権者の署名・捺印: _____ 印)</p> <p>◇ また、本脚本等が将来重複、状態が悪化した場合等の扱いについては、管理者に一任いたします。</p> <p>.....</p> <p>※なお、下記のアンケートにご協力いただければ幸いです</p> <p>該当の( )内に○印を付け、下線部分にご記入ください(不明な部分は未記入でお願い致します)。</p> <p>【権利に関する情報等】(作品によって回答が異なる場合は、別の用紙を使用してください)</p> <p>私は、本脚本等の( )著作権者、( )スタッフ・制作関係者 ( )出演者・その関係者、( )その他→_____です。</p> <p>※以下は著作権者のみ記入してください。</p> <p>本脚本等の著作権者_____と私の関係について ( ) 本人、( ) 相続人、( ) その他→_____です。</p> <p>( ) 本脚本等の著作権は、下記団体に管理を委託しています。 名称 _____</p> <p>( ) 本脚本等(内部書込みを含む)には、本脚本内に表記以外の著作権者がいます。 その著作権者の氏名等 _____</p> <p>特記事項(あれば)_____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>【著作権法上認められている各種利用のほか、インターネットその他での公開を許可いただける著作権者はチェックしてください】</p><p><input type="checkbox"/> 私は、デジタル化した本脚本等をインターネットその他で公開することを許可します。</p></div>
--

## 第4章 目録の作成及びデータベース公開について

(目録の作成及びデジタル化(目録に関する研究))

### 1. 目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、データの標準化策定

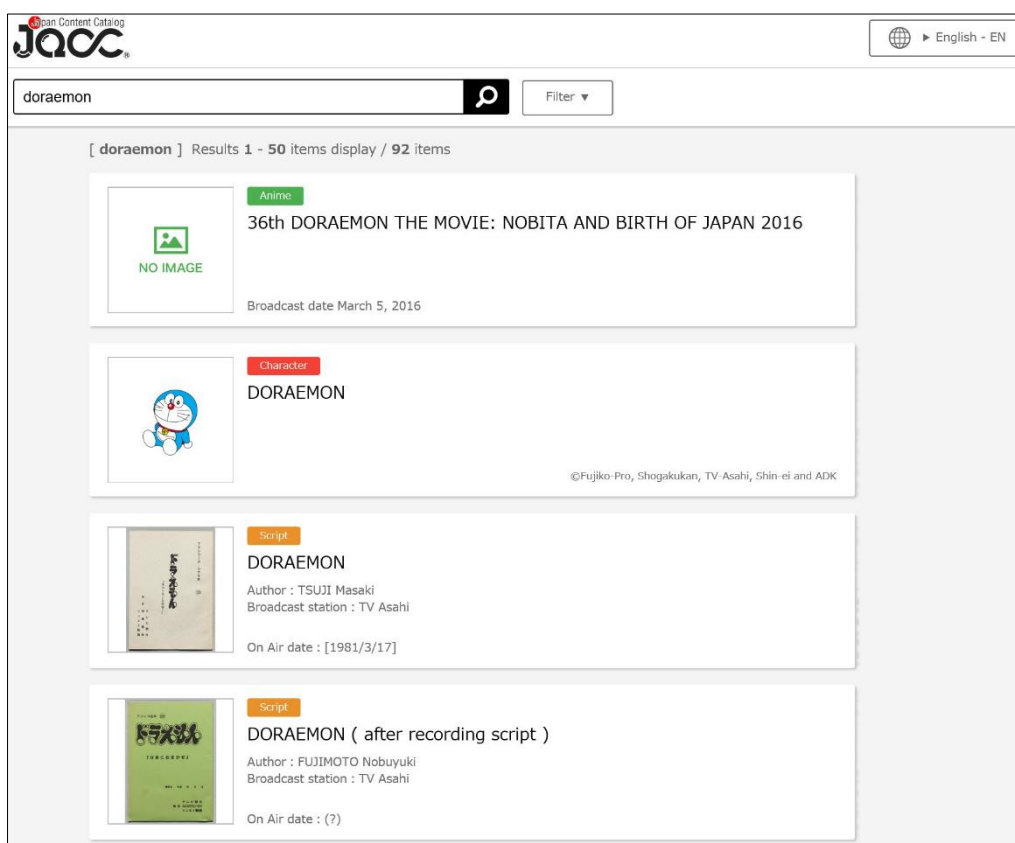
#### 1.1 現在の書誌採取の基礎項目は下記の通り

項目	記入例	Web 公開
管理番号	1 資料ごとにナンバリング。外袋のシールに表示される。 NDL001-0001 (国立国会図書館へ寄贈) など	○
旧管理番号	入力時に一時的に付与。分類後に新しい管理番号を付与。	×
合本	合本製本された脚本にマーク	○
分類	台本または資料、原稿	○
メディア	ラジオ、テレビ、映画、舞台、レコード・CD・カセット、ビデオ・DVD、web 配信、ゲームなど発表された媒体	○
ジャンル	ドラマ、構成、アニメ、映画、海外ドラマ、海外構成、人形劇、演劇、海外アニメ、海外映画、CM など	○
枠名	連続テレビ小説、大河ドラマ、金曜劇場、火曜サスペンス劇場、東芝日曜劇場など、固定された放送時間枠の名称	○
シリーズ名	シリーズ・街、ドラマ・人間模様、6月の花嫁シリーズなど、内容に共通性のある番組群の名称。	○
タイトル	番組の表題	○
タイトルカナ	番組表題のカナ書き	○
タイトル英語化	ローマ字で記載するにとどまり、翻訳には至っていない	○
サブタイトル	副題。各回につけられた題名。	○
台本バージョン	初稿、二稿、決定稿、改訂稿など脚本・台本の稿数。	○
劣化	紙の酸化など劣化が激しいものに○	×
状態	表紙の外れ、紙の破れ、ホチキスの外れ、コピー台本、規格外の大きさであるなど普通ではない状態の場合に記載	×
放送回	台本に記載している放送回	○
放送日	台本に記載された放送日	○
放送局	放送局	○
制作	放送局の他、制作会社など	○
作家名	脚本家、放送作家名	○
原作者	台本に原作、原案の記載があるもの	○
原作名	原作題名	○
出演	H28 年まで冒頭の 3 名記載。H29 年より全員記入	○
作品情報・備考	提供会社名、芸術祭などの受賞歴や、タイトル・サブタイトルが実際の放送と異なっている等、項目外の作品情報	×
寄贈元/属性	寄贈者/寄贈者が作家、制作者、会社などを記載	×
寄贈日	受け入れ日	×
権利処理	寄贈確認の書類送付の有無	×
個人情報	個人情報の有無、被覆作業の有無	×
演出/監督	演出、ディレクター、監督等	○

プロデューサー	プロデューサー、制作、企画	○
音楽	劇伴の作曲者、音楽監督等	○
美術・デザイン	美術・デザイン担当者。美術関連スタッフ（大道具・小道具等）はスタッフ備考に記載	○
考証・指導	時代考証、殺陣指導等	○
スタッフ備考	上記以外のスタッフをすべて記載	○
主題歌	台本に記載されたもののみ	○
尺（分）	放送された時間数（30分、2時間等）	○
放送時間	放送時間帯の表示（8:15～8:30等）	○
あらすじ	台本に記載のあるものは転記。 その他、ライターに依頼し600字～1000字程度作成	○

## 1.2 英語版サイト

2018 度より、海外からの閲覧を目指し、映像産業振興機構（VIPO）の管理する統合検索サイト「JACC サーチ」との連携を行っている。連携にあたり英語版サイトの作成を行い、2019 年 2 月に英語版サイトを公開し、2019 年度からあらすじの翻訳を追加した。



JACC サーチ英語版での DORAEMON（ドラえもん）の検索結果

今年度より、あらすじの翻訳も公開している。

## SAIBŌGU009

Writer	<a href="#">TSUJI Masaki</a>
On Air date	[1968/5/21]
Broadcasting times	16
Reading	
Classification	Scripts
Media	TV
Genre	Animation
Transfer destination	Warehouse(in Storage)
Synopsis	<p>Saibogu 009 (Cyborg 009)A remarkably talented cartoonist, Shotaro Ishinomori, started to publish the series in Shonen Sunday in the 1960s, and gained popularity. Later, a movie version (monochrome) produced by Toei Doga was cinematized. The story starts when Jo Shimamura escapes from a juvenile detention center, and is converted into a cyborg after being caught by the Black Ghost Group which conspires to dominate the world. All cyborgs converted by the Black Ghost Group are called "Number 00", and there are nine of them including Jo; they are selected from various countries and races and are individually given different abilities. Since knowing they have been converted into cyborgs for the purpose of dominating the world they feel resistant to being treated as weapons, so they run away from the Black Ghost Group with Dr. Gilmore as a leader, and decide to stop their domination of the world. The story about cyborg warriors numbered 00 continuing to fight with the Black Ghost Group while anguishing over whether they are machines or humans appealed to young people and was later serialized for TV, and many remakes have been made. Before concluding the story the original author Shotaro Ishinomori died, so the story is still cinematized or novelized as an incomplete masterpiece in a way that fits each era. It has been repeatedly produced by various media to the present date. This work will always and surely be remade at turning points in the world in a new form in the future.</p>



### 1.4 ジャパンサーチとの連携

上記 VIPO がアグリゲーターとなり、JACC サーチを通じジャパンサーチへの「脚本データベース」が連携データベースとして継続して掲載されている。

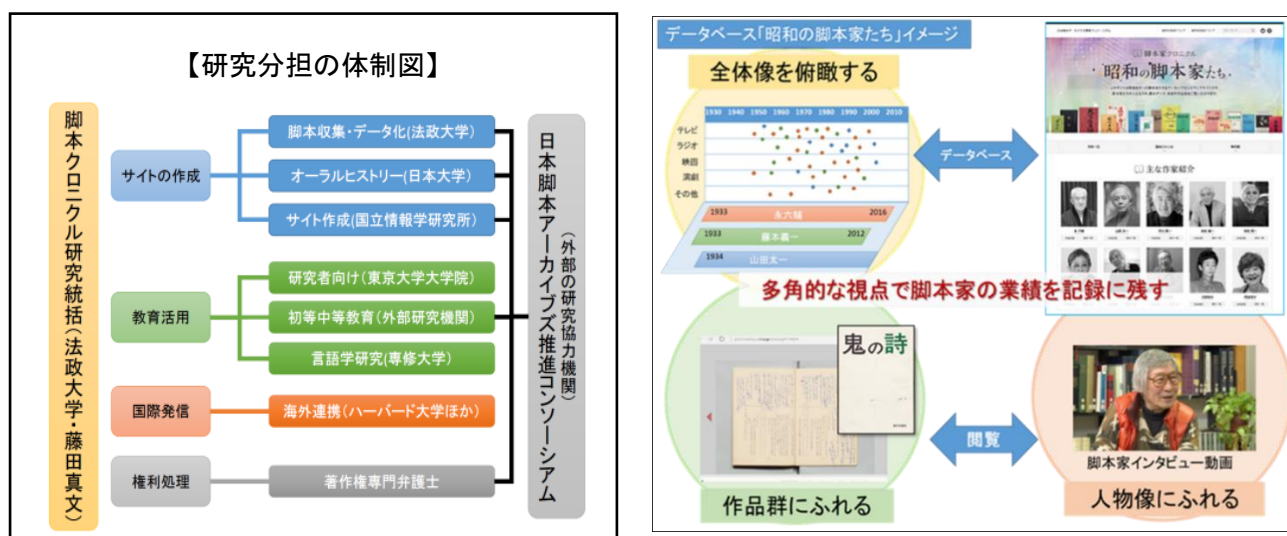
## 第5章 大学機関との連携研究

### 1. 大学連携研究

#### 1.1 共同研究の概要

連携大学機関として、東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、国立国語研究所の研究者たちと共に研究会を開催し「脚本アーカイブズ」の利用方法の検討を行った。

作業場所として、法政大学多摩キャンパス内に研究場所に集約し、脚本の書誌入力・管理および現物寄贈準備を行っている。



#### ■海外取材 (文責 石橋映里)

海外展開の方法については、元国立国会図書館のスタッフと共に、英国への取材の機会を得た。アニメやマンガに対する海外からの関心が想像以上に大きいことがわかる。一方、日本研究やさらに日本の放送に関する関心は低く、周知がされていないことがわかる。

今後、大学連携チームの元、データベース公開などを通じた海外展開を検討していきたい。

- ・ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) 図書館見学、データベース利用とヒヤリング
- ・大英博物館「MANGA 展」見学および日本資料部門のバックヤード見学
- ・「MANGA 展」のシンポジウム参加
- ・ケンブリッジ大学 日本資料図書館見学



ロンドン大学 SOAS 図書館



大英博物館 manga 展



シンポジウム



## 1.2. データベース「脚本クロニクル」(仮題) 作成準備

公開中の脚本データベースは、寄贈された資料を記録する検索システムとしては機能しているが、作品や人物、所蔵先などテーブルをもつデータベースとしての機能はない。入力エクセルに記載する形で行われ、統合して流し込む方法を採用している。そのため、記入に際してブレが生じてしまう。

昨年度より新たに大学連携研究により、データベース機能を開発し、管理画面と公開画面を作成した。今後、データベース「作品」「人物」「脚本資料」に分け、資料を俯瞰する年表や証言インタビュー映像、デジタル化した作品閲覧などをリンクさせ活用できるデータベースの試作を始めた。

このデータベースにより、寄贈を受けていない作品についても、作家の代表作として表示することができ、今後の収集計画にも役立てることができる。

### 【公開中の脚本データベースβ版画面】

 池端俊策 いけはたしゅんさく



1946年、広島県生まれ。明治大学政経学部卒。大学在学中からシナリオ講座に通い、卒業後は竜の子プロダクションに半年間勤務。その後、今村昌平監督の脚本助手となり、「復讐するは我にあり」「楢山節考」の第一稿を手がけた。1981年の「かげろうの死」がテレビドラマ脚本としての出世作。この作品で出会った演出家・鶴橋康夫、浅丘ルリ子と組み、6本のドラマを生み出した。また、今村映画以来の仲である緒形拳主演で「羽田浦地図」「百年の男」「帽子」、ビートたけし主演で「昭和四十六年 大久保清の犯罪」「イエスの方舟」「あの戦争は何だったのか 日米開戦と東条英機」を執筆し、「忠臣蔵」で緒形拳とビートたけしがW主演。1999年、映画「あつもの」で初監督、緒形拳が主演した。「私を深く埋めて」「羽田浦地図」「危険な年ごろ」で向田邦子賞と芸術選奨新人賞、「あつもの」で仏のベノデ国際映画祭グランプリ。2009年には紫綬褒章を受章。

 主な作品

あつもの(99年、シネカノン・日活・アンシャンテ)、「復讐するは我にあり」(東映・今村プロ)、「楢山節考」(79年、松竹・今村プロ)、「夏目漱石の妻」(16年、NHK)、「足尾から来た女」(14年、NHK)、「悪女について」(12年、TBS)、「大仏開眼」(10年、NHK)、「ぼくの妹」(09年、TBS)、「帽子」(08年、NHK)、「死亡推定時刻」(06年、フジテレビ)、「聖徳太子」(01年、NHK)、「鳥恋(からすごい)」(98年、TBS)、「百年の男」(95年、NHK)、大河ドラマ「太平記」(91年、NHK)、「イエスの方舟」(85年、TBS)、「羽田浦地区」(84年、NHK)、「魔性」(84年、日本テレビ)、「昭和四十六年 大久保清の犯罪」(83年、TBS)、「かげろうの死」(81年、読売テレビ)

 年別番組グラフ



年	番組数
1982	1
1983	2
1984	3
1986	1
1991	38
1993	11
1995	1
1996	10
1998	5
2001	7
2010	1

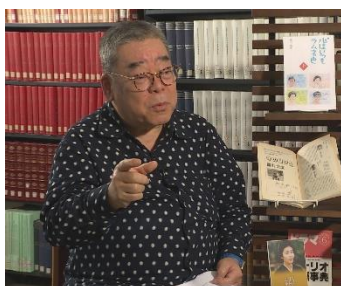


### 1.3 オーラルヒストリー録取

大学連携研究のもう一つの限定公開として、ラベセタトラスの充実などを設置

日本大学芸術学部等に御協力頂き、学生の教育の一環として撮影・編集作業をお願いした。昨年度から引き続き、アニメ分野のインタビューも含め、下記のメンバーのインタビューを行った。

- ・富川元文氏（カンヌ映画祭金獅子賞「うなぎ」の脚本家）2月19日実施
- ・三宅直子氏（脚本家。主婦作家として活躍。ケンちゃんシリーズのほか、アニメ作品多数）3月20日実施。
- ・宮下隼一氏（アニメ脚本家。主な作品「名探偵コナン」）3月22日実施。



富川元文氏



三宅直子氏



宮下隼一氏

### 1.4 教育普及の実施

脚本を作る楽しみを知ってもらうため、小学生に向けた映像制作ワークショップ「ワン・ミニット・ムービー」を実施。平成26年より、年3～4回開催し、500名以上の小学生が参加。今年度は、川崎市市民ミュージアム、NHK放送博物館、品川区立品川学園にて開催した。

## 第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

### 1. 所蔵関係について

#### 1.1 目録の統合の試行

脚本アーカイブ活動において連携している所蔵館は、国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ、NHK 放送博物館、放送ライブラリー、NHK アーカイブス。

今後は大学連携研究にて構築中のデータベースを利用し、全国の脚本所蔵館の資料の統合検索サイトの実証実験ができないか検討中。

昨年度に引き続き、脚本を所蔵している施設のヒヤリングを継続的に行った。

#### 1.2 ヒヤリングの実施

##### (1) 富良野演劇工場・ふらの演劇工房

日時：2019年4月27日（土）

取材先：富良野演劇工場工場長

特定非営利活動法人ふらの演劇工房事務局長 太田竜介

所在地：〒076-0016 北海道富良野市中御料

##### ■取材に至る経緯

脚本アーカイブズでは、将来的に脚本所蔵機関（公共図書館・大学等教育機関）と連携し、脚本の所在情報を横断検索できるシステムを構築したいと考えている。脚本家・倉本聰氏が倉本聰記念館を建てる構想であると伺い、脚本所蔵機関として将来的に連携したい旨を倉本氏と関係者にお伝えする機会をいただけないか倉本財団の関係者に連絡したところ、倉本氏本人がプライベートライブラリーで所蔵しているドラマを観賞しドラマ創作の秘話を自ら語るイベント「富良野やすらぎの刻」が開催されるので、その見学を兼ねての来訪を勧められた。イベント見学の後に会場となった富良野演劇工場設立の経緯と、工場の構造を詳細にご案内いただき、併せて倉本氏にご挨拶する機会をいただいた。

##### ■富良野演劇工場について

25年前、富良野塾の活動を支援し富良野での演劇活動を期待するグループから演劇に特化した小劇場建設運動が盛り上がり、選挙公約で劇場建設を約束した市長が当選。その公約を果たすために建設された。「収容能力のある公共施設」という従来の公会堂のような多目的ホールとは異なり、演劇を発信する側からの視点で作られているのが大きな特徴である。24時間使用を可能とし、季節毎に開演時間を設定するには民間運営にするしかないということで、日本で初めて設立されたNPO団体「ふらの演劇工房」が富良野市からの委託で運営。常時130名のボランティアがスタッフとして登録、イベントの際に手伝うなど地域の

人々に支えられた劇場である。

劇場の設計にあたっては、カナダのエドモンド劇場など海外の優れた劇場を見て回った倉本聰氏の意向や、舞台を活用する人々の意見が取り入れられ、観客とアーティストが一体感を持てる空間となるよう工夫されている。

302席の客席は肘掛けのないベンチシート型でゆったりと観賞でき、前の座席の人の頭が邪魔にならない急勾配の階段式になっている。ベッドを備えた親子観劇席も後方に設けられているなど、観客が芝居に集中できるよう配慮されている。

総工費が10億円と少ないため、ロビーを狭くしたり、駐車場の石垣を富良野塾の塾生が積んだり、テーブルやテレビなどの備品も市民から寄付されたものを利用したりして経費を削減。その一方、舞台を通常より奥行を広くし、役者の「はけ」の動きをスムーズにできるように舞台の上手下手を繋ぐ通路を設置したり、客席の真下に設置した楽屋から舞台に登場できるように客席に花道を作るなど、多様な演出を可能にする工夫が随所に見られる。

主演男女優、メイン男女優用の楽屋以外に、40人の役者が一度にメイクできる空間や、舞台の奥に巨大な鏡を貼ったレッスンルームを設置するなど、役者にとっても使い勝手がよい環境になっている。楽屋の奥には衣装を作る衣装室、大道具を作る作業場、裏方のスタッフルームが併設されており、まさに演劇を作るための「演劇工場」である。

## (2) 明治大学 米沢嘉博記念図書館

日時：2019年7月12日(木) 16時30分～18時

取材先：明治大学米沢嘉博記念図書館スタッフ 齋藤宣彦

明治大学 国際日本学部教授 森川嘉一郎

所在地：〒101-8301 東京都千代田区猿樂町1-7-1

【営業時間】月・金 14:00～20:00 (※最終入館時間 19:30)

土・日・祝日 12:00～18:00 (※最終入館時間 17:30)

【休館日】火・水・木、年末年始 特別整理期間

### ■取材に至る経緯

昨年度ヒヤリングに伺った「明治大学現代マンガ図書館」で175冊の脚本所蔵を確認。同大学系列の図書館ということで脚本の所蔵有無と、アニメ台本の情報共有についての可否についてのヒヤリングを依頼した。

### ■設立の経緯

明治大学の卒業生でマンガ評論家・コミックマーケット準備会前代表の米沢嘉博氏(1953～2006)が遺した図書資料をもとに作られた、まんがとサブカルチャーの専門図書館として2009年10月開館。現在、米沢氏の遺品14万点のうち整理が終了した7万冊が閲覧利用可。明治大学では、マンガ・アニメ・ゲームの複合的なアーカイブ施設となる「明治大学東

京国際マンガミュージアム」(仮称)の開設をすすめており、米沢嘉博記念図書館はその先行施設となっている。

#### ■脚本の所蔵について

現在、「米沢嘉博記念図書館」にはアニメ脚本はほぼ存在しない。「ほぼ」というのは、米沢氏の未整理所蔵品の中にアニメ脚本が紛れている可能性があるが、館としては把握しておらず所蔵品として登録されていない状況であるため。

米沢氏の遺品 14 万点のうち 12 万点が雑誌も含めた公刊のマンガ書籍。マンガ以外にマンガ評論に関する雑誌、書籍、同人誌等、関連参考書籍類があり、この中で脚本が含まれる可能性があるのは未整理の関連参考書籍類の中であると思われる。米沢氏と共同でコミックマーケットを主宰していた市川孝一氏が脚本マニアでもあったため、未整理の資料の中に脚本が紛れている可能性は否定できない。また、アニメの制作プロダクションが廃業した折に脚本を貰った可能性もあるが、館としてはまんがと同人誌の整理を優先しているため、把握できていないのが実情である。

#### ・施設概要

1階 展示室

2階 閲覧室

3～5階 閉架式書庫

#### ・公開資料について

まんが雑誌約 40,000 冊、まんが単行本約 21,000 冊、まんが評論・情報誌約 2,000 冊、風俗系雑誌約 2,000 冊、アニメ誌約 1,800 冊。米沢嘉博氏旧蔵同人誌約 4,000 冊。

上記所蔵資料と併せて、年 2 回(1月初旬～6月前半、8月後半～11月後半)コミックマーケットより預かった見本誌約 50,000 冊。

#### ・資料閲覧について

一般会員は年会費 6480 円、一ヶ月会員は 2160 円、一日会員は 324 円。書庫資料の閲覧については 1 回 1 冊につき 108 円、一日閲覧券は 3240 円。同人誌の見本誌閲覧は 10 サークルまでは無料だが、11 サークル目からは 1 冊あたり 108 円。明大生、教職員は 1 サークル目から 108 円。

#### ・将来的な脚本資料収蔵・公開の可能性について

「明治大学東京国際マンガミュージアム」(仮称)構想が実現し、空間があれば、脚本アーカイブズから移管されたアニメ・特撮などの脚本を保存する可能性はある。アニメ・特撮もマンガと同じくサブカルチャーのコンテンツなので収蔵について基本的に線引きはしない

方針。ただ、公開に際しては表紙に「貸与」と記されているものを公にしてよいのかが悩ましい。大学の研究機関と同様に研究目的で館内閲覧に留めるなどフィルターが必要。研究できても内容によっては発表できない場合も生じるのではないか。

収蔵の可能性がある施設としては、アニメーター・映画監督の庵野秀明氏が代表を務めるNPO 法人アニメ特撮アーカイブ機構（ATAC）も候補にあげられる。役員の氷川竜介、桶田大介氏などに連絡して同様のヒヤリングを行えば、連携の道筋ができるのではないか。

### （３） 東京工芸大学 杉並アニメーションミュージアム

日時：2019年9月19日（木）15時～16時30分

取材先：東京工芸大学 杉並アニメーションミュージアム

運営担当 藤田 輝

所在地：〒167-0043 東京都杉並区上荻 3-29-5 杉並会館 3階

【営業時間】 10：00 ～18：00 （※最終入館時間 17:30）

【休館日】 月曜日、年末年始（12月28日～1月4日）

【入館料】 無料

【設立】 2005年3月5日

#### ■取材に至る経緯

日本のアニメの歴史やアニメ制作に関わるコンテンツの展示、ワークショップ等の活動を行い来場者数も多いミュージアム施設なので脚本の所蔵の有無と併せて、所蔵コンテンツの利活用の状況も併せてヒヤリングをお願いしたところご快諾いただいたので伺った。

#### ■設立の経緯

母体は2003年4月開館の「杉並アニメ資料館」。杉並区はアニメ制作会社が集まっている地域であり、デジタル化に伴い制作会社で使用されなくなったセルや机等のアニメ制作の機材・資材等を常設展示していた。その後、区の「アニメーション振興戦略」の一環で過去のアニメ作品や制作関連資料などを体系的に収集保存し、希望者が閲覧できるようなアニメーションアーカイブの公的施設設立を目的に資料館を拡充。2005年3月に「杉並アニメーションミュージアム」として再開館。運営は一般社団法人日本動画協会。命名公募権により、2018年9月から五年間、「東京工芸大学杉並アニメーションミュージアム」と呼称されるが、東京工芸大学とは事業での連携は一切ない。館長はアニメーション作家・監督の鈴木伸一。

#### ■脚本の所蔵について

現在、ミュージアムでは脚本の所蔵はない。一部、作画監督の机再現展示の場に小道具として脚本が置かれているが、収集閲覧公開目的での所蔵は行っていない。ミュージアムとし

ては、アニメ脚本の所有権は制作会社にあるとの見識。会社が存続する限り脚本を手放すことはないので、会社からの寄贈はなく、ミュージアムとしても積極的に収集することはない。区が施設を作った時のコンセプトは収蔵施設ではなく、アーカイブした物を展示し、日本のアニメ文化の発信基地となる施設。書籍の収集も普通の図書館が購入しないようなアニメ研究に特化した書籍を購入し、研究者に公開。アニメの資料として同館では脚本から落とし込んだ絵コンテを公開。絵コンテの前段階である脚本はビジュアル性、資料性ともに薄いことも収集対象から除外されている要因となっている。

#### ■施設について

杉並会館の3階、中3階、4階にかけての3フロアを公開。3階は日本のアニメの歴史がわかる年表・画像・映像の展示ゾーン、アニメができるまでの過程がわかる作画監督の机再現展示・セルアニメーション制作過程の映像・アフレコ体験ゾーン、これからの日本のアニメがわかるデジタルアニメ制作現場レポート・最新デジタル技術展示ゾーン、アニメの原理がわかる、参加体験ゾーン、アニメのデジタル制作がわかるコンピューターによる色塗り・編集体験ゾーンに分かれている。

中3階は企画展スペース、アニメシアター、アニメライブラリーに分かれている。訪問時は「忍たま乱太郎」の展示が行われており、アニメシアターでも同アニメが上映されていた。ライブラリーにはアニメのDVDや書籍など豊富なアニメ資料の他、アニメ現場に携わるクリエイターのインタビュー映像も閲覧できる。4階ワークショップスペースでは、「動画トレース体験」「粘土アニメ」「オリジナル缶バッジを作ろう！」などのワークショップが過去に開催されている。

来場者は年間7万人。うち1割がアメリカ、中国、アフリカなどの海外からの来場者だという。一般社団法人アニメツーリズム協会の「日本のアニメ聖地88」にも認定されている。ハクシオン大魔王とガンダムの大きなフィギュアや、マンガ家・アニメ監督・声優のサイン・イラストが描かれた柱など、ビジュアル展示にこだわり、日本語の分からない旅行者や子どもでも気軽に来訪できるようになっている。アニメの歴史、原理、制作過程の理解と制作体験が短時間でできて、マニアやファンでなくてもアニメが身近に感じられ、何度も足を運びたくなる魅力的な施設である。

#### (4) 声優ミュージアム

日時：2019年9月26日 13時30分～15時

取材先：株式会社81プロデュース 企画新規事業部広報プロデューサー：千田浩司

所在地：〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-52-18 BOF 笹塚2階

【営業時間】11:00～16:00 (※最終入館時間 15:30)

【休館日】日・月曜日、年末年始、施設改装日等

【入館料】 無料

【設立】 2015年8月8日

【施設面積】 約 85 m<sup>2</sup>

#### ■設立に至る経緯

81 プロデュース創立 35 周年記念事業で設立。テレビの普及に伴い、海外映画の吹き替え、ナレーション、人形劇、アニメ等、「声」を専門に演じる「声優」文化の 50 年を超える近代化の記録と、声優文化が国内外の若者に継承されることを目的として開館。

#### ■取材に至る経緯

実際に声優が使用していた脚本を展示している施設として、新聞・テレビ等のメディアで取り上げられていたこともあり、動画協会・植野氏経由で取材を依頼。

#### ■脚本アーカイブの現状

81 プロデュースに所属する声優からの寄贈が主。他の芸能事務所や声優養成所を閉める際に預かった台本もある。

常設展示では、初代鉄腕アトムの声を演じた名誉館長：清水マリ氏の所蔵台本をはじめ、初代名誉館長：大平透氏、館長：南沢道義氏らが収録現場で使用した脚本や私物、サイン等を展示。他にも肝付兼太、津久井教生、たてかべ和也、鶴飼るみ子、辻村真人など人気声優が使用した台本を声優別に展示。「ドカベン」「機動戦士ガンダム」「ドラゴンボール Z」収録の際の息つぎのタイミングなど、声優が演じる上でのポイントが声優自身の手で細かく書き込まれた台本は、将来声優を目指す後進やファンにとっての貴重な財産として扱われている。アニメ台本以外にも、アラン・ドロンが当たり役だった野沢那智氏が使用した海外映画の吹き替え台本や、ラジオドラマ台本も多数展示されている。

台本以外にも、**声優関連の年表**やキャストによる**サイン色紙**、**声優雑誌**などを展示。かつては裏方の印象が強かった声優も、今ではアイドルとして表舞台に立って活躍する光景が当たり前になっている。『プリパラ』の主題歌などを歌う **i☆Ris** や、同名アニメから生まれた **Wake Up, Girls!** といった声優アイドルグループの関連グッズも展示されており、声優の役割の多様化を垣間見ることができる。

ミュージアムの奥には声優神社があり、神棚の中にはご神体として実際に音声を収録する際に使用されてきた初代「SONY C-38B コンデンサーマイクロフォン」と呼ばれるマイクが祀られている。スタジオオープン以来、のべ 6 万人以上のプロの声優さん達がこのマイクに声と魂を吹き込んできたという。また、神社内には「ご意見帳」というものもあり、そこには声優を目指す人たちのメッセージなどが多く綴られている。



## 2. 放送局との連携に向けた研究

各局のライブラリー部へのヒヤリング調査を開始。脚本や映像の所蔵状況、データの完治システムをはじめとした現状を伺い、データベース連携に御協力頂けるかなどを含め、意見交換を行った。

### (1) HBC 北海道放送

日時：2019年4月25日 17時～18時

取材先：編成局ライツ・コンテンツ部マネージャー 渡辺圭一

藤女子大学 図書館情報学課程准教授 下田尊久

所在地：〒060-8501 札幌市中央区北1条西5丁目

#### ■取材に至る経緯

2016年（平成28年度）、HBC北海道放送のインターンシップで台本整理を行っている藤女子大学の学生3名が脚本アーカイブズを訪れ、脚本の整理方法などについての質問を受けた。その際、HBC北海道放送に東芝日曜劇場などの古い脚本が多数保存されていることが判明。2017年（平成29年度）HBC北海道放送の渡辺氏が川崎市市民ミュージアムの書庫を見学のため訪問。その後、局内で保存していた脚本のうち重複していた脚本193冊の寄贈を受けた。来年10月に新社屋に移るという連絡を受け、現在の脚本の保存状況についてご教示いただきたく伺った。

#### ■脚本アーカイブの現状

脚本は別館3階書庫に保管。1960年代から2002年までHBCで制作していた「東芝日曜劇場」「近鉄金曜劇場」「HBCドラマホール」などのドラマ台本や、公開歌番組「ロッセ歌のアルバム」「ほっかいどう演歌まつり」等の脚本が、ボックスファイルに入れられて書架に保存されている。ボックスファイルの並びは年代順。1つのボックスファイルに1タイトルが付与され、(例：「1961/11/12（昭和36年）東芝日曜劇場 ムックリを吹く女」)そのドラマに関する脚本、写真、企画書等の全ての資料が同じボックスファイルに入れられている。(ネガフィルムの入ったアルバムは対面の書架に別置)東芝日曜劇場以外の資料はピンク色のボックスファイルと色分けされている。中性紙袋には入れられていないが、冷涼な気候が幸いして古い脚本の保存状態はとてよい。

5年前までは映像以外の番組に関する資料は段ボール箱等に漫然と入れられ保存されていたのが、下田教授の指導を受けた学生達がインターンシップで作業を行うようになってから、現在のように一目でどの番組の資料がどこにあるのかが分かるよう整理された。

S TVで見せていただいた報道番組支援システム Japras を HBC 北海道放送でも導入しており、ドラマ番組の保存にも活用を試みている。Japras を利用すればドラマの映像と台本、写真、新聞ラテ欄、確定票を紐付けて保存し、必要があれば検索して取り出すことが容易に

なるので、今後放送局ではこのシステムを使った番組アーカイブが主流になるとと思われる。

同じ書庫には、ドラマの劇版音楽を収録したテープも保存されているが、そちらはまだファイル化の作業途中である。効果音などの音源もテープに残されているが、中には今では採録不可能な青函連絡船乗り場の案内所の音や貨物列車の走行音等歴史的音源も含まれているので、これらの貴重な音の資料を後世にいかに残していくかが課題となっている。

同じフロアにあるライブラリー室にはテープに保存されたニュース番組の映像データが保管されており、そのデータをデジタル化してディスクに保存する作業を行っている。テープ庫には 11000 本ものテープが保存されているが、そのうち 6000 本が LTO というテープストレージに読み込み保存されている。但し、1 本のテープ中には 200 タイトルの番組が入っているので、Japras と連動するには 1 タイトルずつ切り分けて JNN のライブラリーに紐付ける作業が必要となり、その作業は現在、藤女子大の学生がインターンシップで行っている。

2020 年 10 月に新社屋が完成し、脚本資料もそちらに移る予定である。

## (2) STV 札幌テレビ

日時：2019 年 4 月 25 日 15 時～15 時 45 分

取材先：制作スポーツ局制作部担当・鶴裕樹、報道局報道部担当部長・蓮池毅也、  
報道局報道部ライブラリー・菅井久美子、  
技術局制作技術部マネージャー・内山今朝由

所在地：〒060-8705 札幌市中央区北 1 条西 8 丁目 1-1

### ■取材に至る経緯

2006 年（平成 18 年度）に日本脚本アーカイブズ特別委員会が地方局における脚本・台本の処遇問題について調査した際、番組のアーカイブ状況について快く取材に応じていただいた。当時は放送テープ 253600 件が保存されていて脚本・台本は所蔵されていないという回答であったが、13 年経過してアーカイブの状況にどのような変化が生じたのか確認のために伺った。

### ■番組アーカイブの現状

報道局報道部ライブラリーでは常時 8 名で、自局制作の夕方放送の情報番組「どさんこワイド」の特集コーナーの映像・台本・進行担当表をアーカイブしている。保存している映像は 459861 件と、13 年前より 20 万件増えている。2015 年の夏より nishicon（西日本コンピュータ株式会社）開発の Japras(報道支援システム)を導入。これによって、毎日の放送番組の制作・準備作業と並行して素材（映像・原稿）の管理を行うことが可能となった。同システムでは作成された原稿をデータとしてコピーすることができ、STV では映像とは別のサーバーに保存。同システムではオンエア映像や番組制作素材等の貴重な資料映像もデータベース化して保存されるので、再使用の際の検索抽出作業が簡便化され、素材の利活用に大いに役立っている。特に取材に伺ったのは平成が終わる 1 週間前の平成最後の企画番組が目

白押しの時期であったので、平成に北海道で起こった大きな出来事などの過去の映像を抽出するために頻繁に利用されていたという。映像資料はディレクターが書いた内容を示すリード文と共に登録。フリーキーワード化され、曖昧検索にも対応しているが、より簡便にピンポイントで使いたいところだけを抽出するには、何通りものキーワードと紐付けする作業が必須である。そのためライブラリーで取材場所や内容などの情報や、野球の試合で動きがあった場面を確定するための情報入力等、映像を見ながら手作業で行っている。抽出した素材映像は社内 LAN で繋がった編集機の中に取り込まれ、必要な部分だけを切り取って新しい番組プログラムに編集し放送することが可能である。

Japrs 導入以前の古い映像も保存されてはいるが、素材データはディレクターの PC に保存されたままの状態であり、ディレクターが書いた原稿も同様である。放送された番組（カンパケ）については、1 週間分を 1 枚のブルーレイディスクに保存している。

「どさんこワイド」以外では、自局制作で大泉洋出演の「1×8いこうよ!」や、サンドウィッチマン出演の「ブギウギ専務」の番組 Cue シートが番販用に保存されている。

### **(3) フジテレビジョン**

日時：2019 年 6 月 3 日 15 時～16 時 30 分

取材先：技術局放送技術センターメディアバンク

部長・早川謙二 副部長・吉本忠昭 木村瞬

総合事業局コンテンツ事業センター戦略担当局長兼コンテンツ推進室長・加藤浩輔

同コンテンツ活用推進部長・志牟田徹

同コンテンツライツチームマネージャー・本田一樹

所在地：〒137-8088 東京都港区台場 2-4-8

#### **■取材に至った経緯**

2019 年 5 月 24 日、上記メディアバンク部長早川氏、コンテンツ推進室長加藤氏と、著作権契約部長藪木令子氏、編成部長渡邊郁子氏の 4 名が川崎市市民ミュージアムを訪問、フジテレビ所蔵のアニメ台本を脚本アーカイブズに寄贈したい旨の申し出を受けた。脚本アーカイブズ所蔵脚本の保存方法や権利者への連絡、公開状況等について説明の後、文化庁の委託事業として脚本所蔵機関や放送局との連携と脚本所蔵状況の調査を検討している旨をお話したところ、調査へのご協力をご快諾いただき、今回取材に何う運びとなった。

#### **■メディアバンク設立の経緯**

放送番組メディアのファイル化保存管理を目的に 3 年前に技術局に設立。それ以前は編成局コンテンツ事業部門が担当。ファイル化保存は映像が主。脚本は現物を外部倉庫で保存管理している。

- 担当人数:技術センターの社員3名がメインだが、実際には業務委託スタッフ多数で運営。  
脚本の公開状況:外部倉庫保存のため脚本の一般公開は行っていない。

■資料の保存について

【脚本】

所蔵数(概算)	ドラマ、構成というジャンル分けはしていないが、アニメ脚本を除いて現在把握している冊数は概数で22,000冊強。
所蔵形式	現物保存が主。以前はOBが保存していた物や局内に保管されていたものを受け取り保存していたが、現在は制作や編成から4月、10月の番組改編期に作成した脚本が預け入れられるシステム。預け入れに際して、メディアバンクに「台本預け入れリスト」が送付され、そのリストが所蔵台本のデータベースの基となっている。 過去にマイクロフィルム化された台本はpdfに落としマルチTIFFで保存。形態、保存場所が違うため上記所蔵数とは切り離している。
保存方法	住友倉庫指定の蓋付きの文書管理箱(30cm×40cm×30cm)に入れ、平和島の温湿度が一定に保たれた倉庫で保管。藁半紙でホチキス止め等柔らかい形状の脚本は薄いプラスチックの保存ボックスに入れてから箱に入れている。 脚本には一冊ずつ管理番号のついたシールを貼付。 どの箱にどの脚本が入っているかという情報は、住友倉庫のACFOSというソフトで管理。
閲覧	局内での閲覧は可。 閲覧の流れ:閲覧希望者から申請書を受付→ACFOSで脚本を検索→目的の脚本が入っている箱を住友倉庫から取り寄せ→希望申請者に貸出し→返却脚本受け取り→住友倉庫に戻す 閲覧の目的:過去の番組の解説放送用字幕作成のために内容を確認するケースが多い。放送ライブラリーでドラマ展展示のため貸し出したこともある。 利用件数:あまり多くはないが、調査に伺った時点では20冊ほど閲覧貸出し中。
所蔵資料年代	一番古い脚本:1959年1月26日 試験放送用ドラマ「わかれ道」 保存開始年:1980年に天王洲アイルの自営倉庫で、旧河田町本社ビルで保存していた台本の定温管理を始める。
目録管理	データベースの概要:Oracleを採用 データ入力:Acrossに委託 入力項目:「番組名称」「話数」「サブタイトル」「枠タイトル」「分類(アニメ、時代劇、ドラマ、番組台本)」「形態(製本、合本)」「放送日」「備考」 データの公開予定:無 データベース連携・提供の可能性:システムにアクセスできるアカウントを持つ社員限定なので外部への公開は考えていない

## 【映像】

### ・所蔵映像資料数

**XDCAM**（エックスディカム）、**Digital BETACAM**（デジタルベータカム）に保存された映像、約 40 万本。ドラマ、バラエティ、ワイドショー等ジャンルを問わず放送された番組を随時保存。

### ・脚本と映像とのデータリンクは無

### ・所蔵映像の検索

制作サイドのシステムにアクセスできるアカウントを所持するユーザーのみデジタルアーカイブを利用可能。ほとんどは二次使用利用目的。

検索タグ付けのための番組情報は、コンテンツライツの方で入力。（内容、出演者等）

コンテンツ推進部は 2002 年位から、2 次利用セクションのための番組情報のメタデータを整備。フジテレビ本体では 2003～04 年ぐらいから海外への番販用にファイルメーカーで素材を自前でデータ管理。現在は見逃し配信事業を行っているため、早い段階での脚本家、出演者等の権利処理の必要から脚本を活用。

## ■今後の脚本アーカイブズとの所蔵館連携会への御協力の可否

### ・脚本の書誌データの標準化を目指し、検討する会議への御協力

→在京テレビ局のアーカイブ部長会議が年に 1 度くらいの頻度で開催されているが、話題は主に映像保存。脚本については各社方針が定まっていない印象。文化庁の委託事業で放送局の連携が必要ならば、民放連から各局に協力依頼の声掛けが必要。

### ・脚本データベースの不明放送年月日（特に放送年）調査への御協力

→メディアバンクの情報の外部提供は難しいが、コンテンツ事業部で放送実績等との照合など協力することは可能。

## （４）テレビ朝日若葉台メディアセンター

日時：2019 年 10 月 3 日 15 時～16 時 30 分

取材先：技術局アーカイブ運用センター メディア担当部長：出田旬

技術局アーカイブ運用担当局長兼アーカイブ運用センター長：朱牟田眞吾

所在地：〒206-0824 東京都稲城市若葉台 2-10-1

## ■取材に至った経緯

今年度、地方局も含め各放送局のアーカイブ事業の現況取材している旨を各関係団体に報告したところ、放送人の会理事・吉田賢策氏のお口添えにより吉田氏の元勤務先であるテレビ朝日から取材のご快諾いただいた。

■メディアセンター設立の経緯

テレビ朝日はかつて平和島にある住友倉庫に放送番組のテープ、データ等を保存していたが、2011年の東日本大震災以後、被災後も事業継続を可能とするBCP対策のためメディアセンター構築の検討を始める。免振・津波対策と六本木本社からのアクセスの観点から稲城市若葉台に場所を選定。(稲城IC出口から10分。トラックで六本木まで45分。台風、豪雨、雪等で高速が通行止めでも迂回せず往来可能な立地)

2017年2月1日竣工。2019年4月に住友倉庫平和島ACからの移管作業完了。外部倉庫に預けている資料は一切なくなり、全て自社で管理している。

・メディアセンターの規模、構造

地上6階 敷地約16,000㎡ 延床面積 20000㎡

1階 アトリウム(地域住民に開放) 2階 ラウンジ 1階・4階(半分) 美術倉庫

1階(一部) 3階・4階(半分) 放送番組アーカイブ

・担当人数：常駐スタッフは不在。実際の業務は委託スタッフが運営。

・脚本の公開状況：脚本の一般公開は行っていない。

・資料の保存について

【脚本】

所蔵数(概算)	メディアセンターで「脚本資料」として把握しているのは ドラマ脚本約4000冊、構成番組脚本約100冊。 放送番組のテープ、データ以外の資料は各制作部局で箱に入れて保管されメディアセンターに箱が移管されたが、箱の中身についての詳細なデータは不在。 中に脚本が入っていて上記の数字より多い可能性もあるが実数は不明。
所蔵形式	現物保存が主。
保存方法	ダンボール箱(28cm×24cm×22cm)に入れて保管
閲覧	無し
所蔵資料年代	一番古い脚本：1960年代 保存開始年 不明
目録管理	無し

## 【映像】

- ・所蔵映像資料数 約 160 万本。ドラマ、バラエティ、ワイドショー、アニメなどジャンルを問わず放送された番組を随時保存。保管場所は 3 階の北・南倉庫。大きさにより棚が分かれている。室温管理は 24 時間徹底されており、常時 22～24℃、湿度 45～50%を保つ環境下で保管されている。

HDCAM は 7 段、XDCAM は 10 段、スモールテープは 13 段。資料の置き場所は貸出利用の多い物が倉庫の出口付近に保管されるよう、三谷コンピューター株式会社の WMS システムを採用。タイトルやジャンル等、番組の内容や年代順には並べられていないフリーロケーション。

- ・脚本と映像とのデータリンクは無

- ・所蔵映像の検索

WMS システムで、資料番号から現在資料が保管されている場所情報が常に読み取れる。メディアセンターのアーカイブは、資料の 2 次利用が目的。六本木本社から貸し出し依頼があると、3 階倉庫保管棚→1 階配送用保管棚（オリコン）→六本木本社へと移動するが、場所が変わる毎に、現在地の情報をバーコードで読み取り資料番号と紐づけするシステム。ちなみに本社への配送作業は 1 日 5～8 回。配送と兼ねて返却テープのピックアップ作業も行う。

- ・所蔵映像変換作業

メディアセンターでは 2 次利用のため、HDCAM に保存された昔の映像を一日 240～250 本 ODA に変換している。倉庫の棚ピックアップ→変換対象物倉庫→状態確認→インジェスト準備棚→機械で変換作業→ノイズチェック→倉庫の棚に返却と、作業行程の中でテープが移動しても、現在地が分かるよう、作業場所のバーコードと紐づけして管理をしている。5 年間で 40 万本が変換され保存された。

## 【その多資料】

主に文書箱とテープ箱に分けて 4 階倉庫に保管。文章は主に事務的な書類。箱数は文書、テープ合わせて約 5 万箱。そのほかにレコードも 80 万枚保存。レコードは音源というより、ジャケット写真を二次利用することが多い。

## 第7章 委員会の開催、シンポジウム(中止)

### 1. 検討委員会の開催

- ・ 第一回：2019年7月30日 15:00～17:00（於・日本脚本家連盟会議室）
- ・ 第二回：2019年12月9日 15:00～17:00（於・日本脚本家連盟会議室）

#### 【検討委員会メンバー】

所属	氏名	役職
東京大学	吉見 俊哉	大学院情報学環教授（検討委員会座長）
日本大学	上滝 徹也	名誉教授(コンソーシアム副代表理事)
国立国会図書館	内海 和美	利用者サービス部 音楽映像資料課 課長
日本脚本家連盟	金子 成人	理事・著作権委員長
	柳井 克朗	事務局長
日本シナリオ作家協会	佐伯 俊道	常務理事
日本放送作家協会	香取 俊介	理事
日本放送協会	藤澤 浩一	NHK制作部 ドラマ部長
	阿部 康彦	NHK アーカイブス
日本民間放送連盟	田嶋 炎	番組・著作権部 部長
川崎市市民ミュージアム	氏家みち江	学芸員
放送番組センター	鈴木 貴尚	アーカイブ・事業グループ
早稲田大学演劇博物館	岡室美奈子	早稲田演劇博物館館長
国立映画アーカイブ	岡田 秀則	主任研究員・資料室長
映像産業振興機構(VIPO)	槇田 寿文	事務局次長
日本脚本アーカイブズ 推進コンソーシアム	池端 俊策	代表理事
	石橋 映里	常務理事・事務局代表
	入山さと子	理事・収集管理部門主任
文化庁	伊野 哲也	参事官(芸術文化担当)付 参事官補佐
	北山 翔太	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係
総務省	片柳 早苗	情報流通行政局 情報通信作品振興課 流通調整係長
法律アドバイザー	福井 健策	弁護士 日本大学芸術学部客員教授
	松澤 邦典	弁護士



## 第8章 脚本アーカイブズ活動の今後の展望について

昨年度から新たに始動した、第二期「文化関係アーカイブ構築の調査研究」を、5年間(2023年まで)の活動としてとらえ、これまでのデジタル化やデータベースの研究、脚本収集・公開の実行などを継続実施しつつ、以下のポイントを重点事項として研究調査活動を進める。

### ■ポイント① 「デジタル脚本アーカイブ」構想

データベースの統合化、放送局との連携を図る帰結として、ドラマ脚本のうち 代表作品100作を目標に、その全文(もしくは梗概)を掲載するWebサイトの構築・公開を検討する。完成はテレビ開始70周年(2023年)を目標に、権利処理を行いつつ公開を目指す。

### ■ポイント② 「映像とコラボしたイベントの定期的開催」

映像アーカイブと連携することが脚本の価値の見直しに大きく繋がる過去のシンポジウム等の成果を踏まえ、脚本アーカイブの有用性を掘り下げていく。

### ■ポイント③ 「脚本アーカイブズの多言語化および海外連携」

脚本の英訳化に続き、多言語化(中国語化等)による国際展開の道筋を開発していく。さらにジャパンサーチとの連携研究を深めていく。

### ■ポイント④ 「1980年以前の貴重台本の移管」

最終年度までに収集を完了し、入力、複本の除外選別、燻蒸などの作業を行う。

2023年度末に国立国会図書館への第二期寄贈(上限3万冊)が整うように実務的な交渉を進める。さらに、映画、演劇の他、アニメ脚本についても移管先の交渉を進める。

### ■ポイント⑤ 「データベースの移管」

現在、移管先での脚本閲覧は各館のOPACに掲載されていないことから、脚本データベースで検索され、閲覧請求がなされている。この方法では永遠に「脚本データベース」を運営しなければならない。そこで、5年間の研究期間にデータベースの移管管理先を検討し交渉することが必須となる。

### ※5年目以降の研究事業について

大学連携による研究費確保を検討する。

なお、活動の端緒となった「一般社団法人 日本放送作家協会」と連携を強く保ち、会員・賛助会員の共有化やスポンサーを募るなど、上記の発展的活動を行う。

【5年間(2018年～2023年)の活動案】

		2018年 (平成30年)	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
基礎となる事業	脚本収集・デジタル化・移管	年間1万冊を目標に収集・入力・管理						公的機関 移管完了
	脚本データベース (DB) 拡充 あらすじ・キーワードの追加							
	表紙サムネイル・前付けの デジタル化および脚本DB掲載							
	オーラルヒストリーの実施 脚本DBへの掲載							
	個別の作家・ジャンルの デジタルアーカイブ構築	山田太一 ほか						
デジタル脚本ライブラリー	統合検索サイトの検討・構築	検討開始		作成	公開			
	放送局との連絡会 脚本データの調査・データ統合	検討開始	発足				データ統 合	
	デジタル脚本ライブラリー 日本のドラマ脚本100選 (仮)				準備会	権利処理	資金確保	
映像×脚本活用	「映像×脚本トークショー」 脚本関連イベントの検討	年1～2回程度のイベント開催					テレビ70周年イベント	
	脚本と映像を連携利用した研究	検討						
脚本アーカイブズの国際発信	脚本データベースの英語版作成	検討	作成					
	デジタル脚本の英語版作成 JACCサーチと連携公開		権利処理検討	権利処理と共に脚本全文の翻訳			公開	
	国際発信体制として 著作権典拠リスト作成	著作権管理団体と協力						
事業展開	2023年度以降の活動継続	会員制度・企業メセナなど資金源確保 の検討						

脚本アーカイブズ活動は、文化庁、NHK、日本民間放送連盟、放送文化基金、子どもゆめ基金、映像産業振興機構、川崎市市民ミュージアム、国立国会図書館、放送ライブラリー、法政大学、ほか多くの皆様の御協力とご支援により支えられています。

令和2（2020）年3月31日発行

発行 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

編集/執筆

石橋映里・入山さと子

〒102-0081 東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル5階

一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

TEL : 03-5210-7029 FAX:03-5210-7021

Email : [nkac@hosakkyo.jp](mailto:nkac@hosakkyo.jp) <http://www.nkac.jp/>

本誌の無断複写（コピー）は、著作権上の例外を除き著作権侵害となります。





本報告書は文化庁の委託事業として、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが実施した 2019 年度「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。